

希望の船

We love BIWAKO

「みずうみに学んで世界の明日をひらく人」

滋賀県立びわ湖フローティングスクール
〒520-0047 大津市浜大津5丁目1番7号

<https://uminoko.jp/>

「フローティングスクール学習」の充実へ

【所長 東 文三】

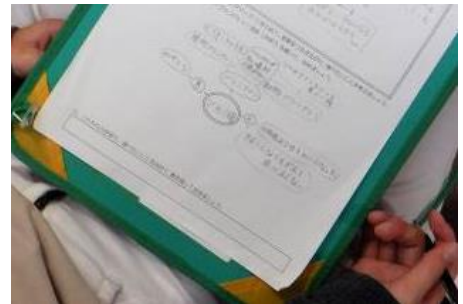
平成30年、新しい学習船「うみのこ」が建造されて、新船での学習が主体的、対話的で深い学びとなるように「フローティングスクール指導解説」を発刊しました。そこでは、「乗船前から乗船中、そして乗船後」までの一連の学習を「フローティングスクール学習」として定義し、1つの単元として教育課程に位置付けて、総合的な学習の時間や各教科等と関連付けながら展開していくようにとしました。

本年度は、その「フローティングスクール学習」の充実を目指して「乗船中の課題追究の工夫」をテーマに研究航海を次のように2回実施しました。

【第1回】第60回児童学習航海・近江八幡市立八幡小学校、近江八幡市立島小学校

○概要

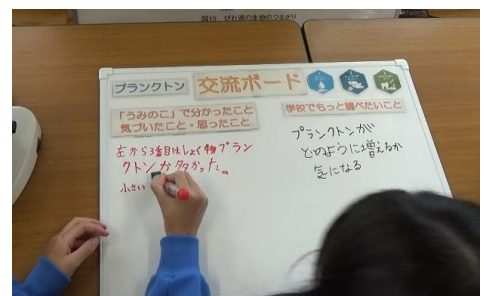
- ・乗船前に「魚について調べたい。」「びわ湖の水を調べたい。」など大まかな課題を持てるような学習を仕組み、乗船中には様々な体験を通してその課題を詳しく明確にするようにした。漁業関係の方へのインタビュー、水のよごれ回復実験やびわ湖の深呼吸実験などの出前授業により、児童は自分の課題をもつことができた。
- ・乗船中には、体験を通して学んだことや知ったことがどうつながっているかを整理するため、思考ツール「ウェビングマップ」のワークシートを活用した。水をテーマに調べる児童は「水 ⇄ 緑 ⇄ プランクトン ⇄ 赤潮の原因」というようにつなげて、水とプランクトンの関係に着目して課題を追究する姿が見られた。



【第2回】第67回児童学習航海・甲賀市立伴谷小学校、甲賀市立柏木小学校

○概要

- ・乗船前の学習としてMLGsをテーマに、その背景や項目を学んで学習課題を設定した。「私のびわ湖宣言」を考えることを学習のゴールとして明示したことにより、児童は見通しをもって取り組むとともに乗船中の学習への意識が高まった。
- ・乗船中、本物体験を通して課題を追究できるようにするための工夫として、「交流ボード」を設置した。「プランクトンがどのように生まれ、どのように増えるのか。」「どうして(びわ湖の)水がきれいになったのか(知りたい)。」など児童が自由に記入し、それを読んだ他の児童が次の学びにいかし、児童同士の学び合いのきっかけとなった。交流ボードは、学びを深めるものであるとともに、全体での「学習のまとめ」の時間にも有効に活用することができるなど、児童同士の“協働的な学び”の場を生むツールとなった。



このように、「乗船中の課題の追究の工夫」をテーマに、以上のような研究航海が実施できました。詳細は、後日、ホームページに掲載する予定です。今後の航海に活用していただければ幸いです。